

ライムギの特色を生かした 地帯別栽培のポイント

雪印種苗株 千葉研究農場
宮崎試験地

山 新
瀧 海
和 泰
夫

はしがき

ライムギを作物的にみたり飼料生産性という視点でとらえると、あまりパッとせず、むしろ目立たない存在と言えます。しかし、栽培環境や作期を限定して議論すれば、——冬作における優れた耐寒性など——実に頼りがいのある作物となってきます。

ライムギの栽培地域は、旧来の東北、関東東山、北陸中心から、近年は九州を含む西南暖地まで広範な広がりをみせています。特に、夏～秋作の収穫時期が遅れ、イタリアンライグラスの適期播きができないケースでは、ライムギの独壇場となり、効率的でしかも安定した作付け体系を設定するうえで、その存在が重みを増してきます。

品種面では、現在は極早生で耐雪性に富む「春一番」や「初春」が利用の中心を占めております。

旧来は、耐雪性の付与が不可欠でした。しかし、今後は、雪の影響を受けない地域でその栽培が拡大すると予測され、この場合は、耐雪性より利用性にウエイトを置いた品種が必要とされ、私達は試作系統(ES-5)を選抜し、現地確認を進めてい

ます。ライムギ品種の選定にあたっては、栽培地域が雪の影響を受けるか、受けないかで、区分して考えることが、今後は必要と思われます。

ライムギの飼料特性は利用の仕方大きく異なってきます。消化性(栄養価)を追求する場合は、出穂初期の若刈りとし、繊維(粗飼料効果)を期待する場合は、糊熟期前後の利用が乾物収量も高まり好適です。

サイレージに調製する場合、若刈りでは予乾等による水分調整と糖添加(乳酸菌スノーラクトLの添加)がポイントで、糊熟期以降の遅刈りではアンモニア処理が有効です。

ライムギに関するアウトラインを紹介しました。以下、栽培地の環境条件と対応した栽培の留意点をまとめることにします。

1 寒高冷地での栽培のポイント

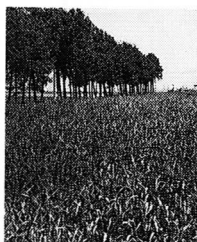
1) 播種期

東北北部及び上信越地域で9月下旬～10月上旬、東北南部及び北関東地域で10月上～中旬、関東以西で10月中～下旬が播種適期です。

2) 播種量

目 次

- スノークロップシリーズ「リンダ」「ネリナ」……………表②
- えだまめシリーズ「サッポロミドリ」「美園グリーン」
「キタノズ」「ユキムスメ」……………表③
- ライムギの特色を生かした地帯別栽培のポイント……………山瀧 泰 1
新海 和 夫
- 放牧方式を取り入れた肥育もとと牛の低コスト生産……………手島 道明… 4
- 東北の転換畑における飼料作物の現況と作付体系について…萩野 耕司…10
- 西南暖地におけるスイートコーンの栽培事例……………七澤 和洋…14
- ライムギ「春一番」「初春」……………表④



出穂初期(刈取適期)を迎えたライムギ「初春」(雪印種苗株宮崎試験地)

散播で5~8 kg/10 a が標準です。

ライムギは耐寒性が極めて強く、0℃以上の気温であれば生長を続け、越冬時では分けつ数を増加します。遅播きでは、この分けつの増加期間が短縮するため収量が急速に低下するので、播種量 10~12 kg の厚播きが好ましいでしょう。

3) 施肥量

基肥で、N：4~5 kg、P：8~10 kg、K：6~8 kg/10 a が標準です。早播きでは、軟弱に徒長し耐寒性が低下するので、特に窒素、堆肥を控える必要があります。

また早春の窒素 5 kg 程度の追肥は増収効果が大きく、施肥にあたっては越冬後できるだけ早い方がよいでしょう。

4) 収穫期

本誌第 35 巻 7 月号(1987)『ライムギ新品種「初春」を活用した冬の有効な飼料づくり』で紹介したように、ライムギは、乾草、サイレージ、青刈りのいずれでも出穂初期が収穫適期です。ただし、このステージでは水分が高く、サイレージ調製には 1~2 日の予乾が必要です。

5) 混播栽培

イタリアンライグラスとの混播では、WSC(水溶性炭水化物)が高まり、嗜好性も改善され、サイレージ品質の向上と収穫期幅の延長につながります。混播割合はイタリアンライグラス 2~3 kg、ライムギ 4~6 kg がよいでしょう。

2 積雪地帯での栽培のポイント

1) 雪腐病

根雪期間が 100 日を越す地域では紅色雪腐病が発生し、ライムギを死滅させることがあります。紅色雪腐病は、融雪後の枯死株が桃色状を呈しているもので、雪腐病中、最も被害の大きいものです。

2) 防除法

①適期播種(9月中~下旬)に心がけましょう。降雪時

表 1 雪腐病検定試験結果(昭61)

雪印種苗(株)千葉研究農場

	越冬前丈 (cm)	紅雪腐病 評点	褐色小粒 菌核病 評点	残存株率 (%)	早春草勢 評点	早春草丈 (cm)
[新潟]						
春一番	24	6.0	2.0	90	6.5	15
初春	20	5.5	3.0	93	7.0	14
他社 K	25	4.0	2.0	65	4.0	13
他社 H	29	2.0	2.0	35	4.0	13
[岩手]						
春一番	27	5.5	9.0	90	7.5	34
初春	26	5.5	9.0	80	7.0	32
他社 K	29	1.5	9.0	15	5.0	22
他社 H	33	2.0	9.0	25	6.5	30

評点 9：極強、極良~1：極弱、極不良

で草丈 30~40 cm 程度の生育量を確保することが必要です。

②紅色雪腐病抵抗性品種を使うことが肝要です。極早生品種の中では「春一番」「初春」をおすすめします。(表 1 参照)

③融雪時には、できるだけ早く窒素 5 kg の追肥を行い、弱っている株の生長を促進しましょう。

3 西南暖地における栽培のポイント

雪のない西南暖地地域におけるライムギ栽培のポイントを紹介します。

1) イタリアンライグラス冬枯れ防止対策とライムギの活用

図 1 の通り、西南暖地におけるイタリアンライグラス作付け体系の中で、11 月以降播種する場合、寒さの厳しい都城盆地等はライムギを混播し、イタリアンライグラスの冬枯れ防止と共にライムギの飼料特性の改善が進められています。

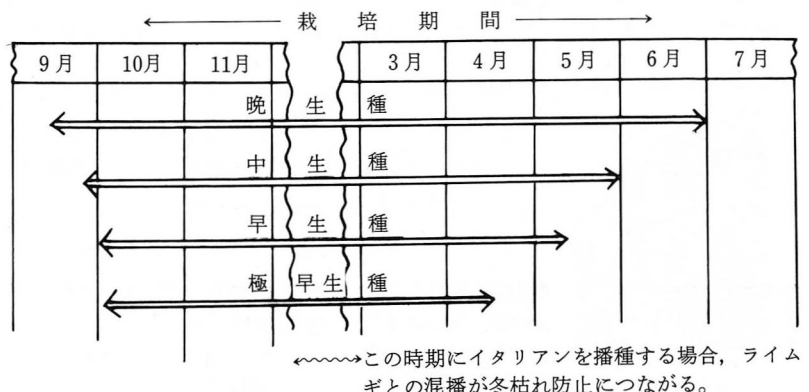


図 1 西南暖地におけるイタリアンライグラス作付け体系

ポイント1 播種期

11～12月にかけて播種する場合、イタリアンライグラスが3～4cmで冬越しをする際、霜柱等での冬枯れをライムギは防止します。発芽後ライムギは低温でも生育し、しばらくは匍匐状態の形でイタリアンライグラスを寒さから守ります。

ポイント2 混播方法

サクラワセ、タチワセ等の早生タイプ3kg/10aとライムギ1～2kg/10aをやや多目に播種することが冬枯れ対策のポイントです。

ポイント3 鎮圧

播種直後のローラはもちろんのこと、霜柱の強い12～1月にローラをかけ、麦踏みならぬイタリアン踏みをするのが重要なポイントです。

ポイント4 追肥

2月中旬にNKを主体とした追肥(20kg/10a)を施用します。これは乾草多収のポイントです。

2) ライムギを利用した乾草利用法

最近、南九州では稲わらが不足し高騰しております。このような対策に和牛繁殖農家を中心にイタリアンライグラスとライムギ乾草生産が急速に普及しています。

ポイント1 イタリアンライグラスの混播品種

ライムギとの出穂性が適合する極早生イタリアンライグラス「サクラワセ」との組み合わせが主

流となっています。

ポイント2 播種期

乾草目的の場合は、10月中～下旬播種が利用のベストです。

早くても遅くてもいけません。

ポイント3 播種量

冬枯れ防止対策と違い適期播種になりますので、サクラワセ(2kg/10a)とライムギ(1kg/10a)の組み合わせが理想です。

ポイント4 調製法

ライムギ出穂初期に、桜満開後の移動性高気圧を利用して、すばやくクリンパータイプのモーターコンディショナー等を利用し、速やかな乾草調製を進めることが良質乾草生産のポイントです。

3) 厳寒期播種利用法

西南暖地ならではの技術ですが、1～2月の厳寒期に播種利用できるのもライムギの大きな魅力です。

ポイント1 播種量

厳寒期のため5～6kg/10a播種が理想です。

播種直後のローラをしっかりとかけることが大切です。

ポイント2 ライムギ踏み

霜柱の強い時は、こまめなライムギ踏みをするのが肝要です。

ライムギ品種特性一覧表

春 一 番	初 春	試作系統(E S - 5)
<ul style="list-style-type: none"> ○極早生。 ○越冬時の草型は匍匐型で耐寒性及び雪腐病抵抗性ともに強い。積雪地帯での青刈り、乾草、サイレージに適する。 ○ライムギのベストセラー品種。 	<ul style="list-style-type: none"> ○極早生。 ○出穂期は「春一番」より3～4日早い。 ○耐寒性及び雪腐病抵抗性ともに強い。 ○特に早春の草勢に優れ、収量性が高い。 ○耐倒伏性に優れ、乾草、サイレージ、緑肥利用に適する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○超極早性。 ○出穂期は「春一番」より1週間早い。 ○越冬時の草型は直立型で草丈が高い。耐寒性は強い。無積雪地帯での栽培に適する。 ○春播き性が高く、早春播き初夏どり、晩夏播き年内どりが可能。春播きでは「春一番」より2週間早生となる。